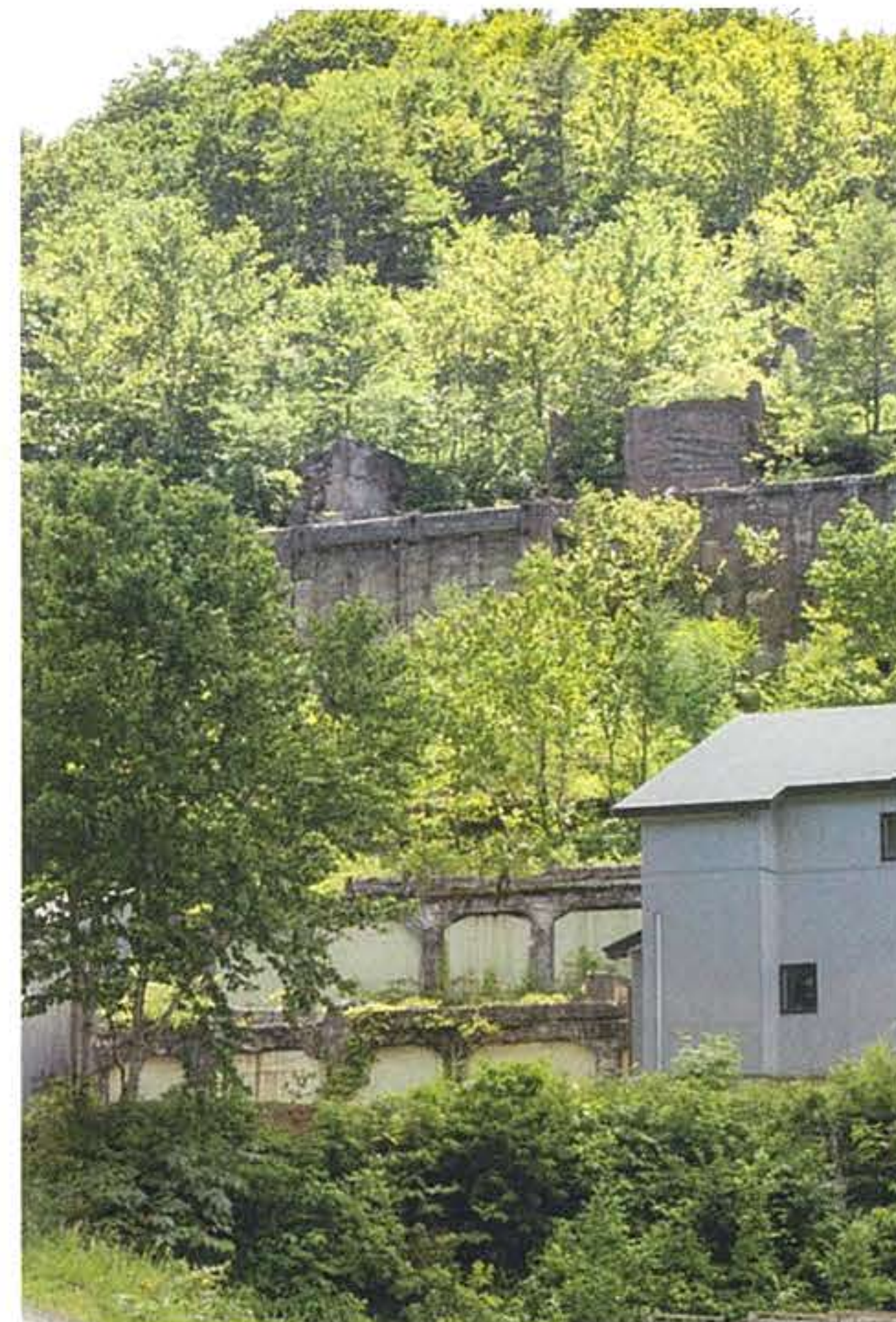


たんさく 青森の戦跡・慰霊碑を巡る⑤ 神風鉱山と呼ばれた上北鉱山



青森県には、今はほぼ全て稼働していませんが、過去100箇所を超える鉱山が稼働しており、戦前・戦中・戦後にわたって採掘が行われ、金、銀、銅、鉄、亜鉛などの金属が産出し生産されていました。それらは戦時中、輸入が止まり、元々資源に乏しい日本においてとても貴重な軍需品でした。そのような鉱山の一つに戦時中「神風鉱山」と呼ばれた「上北鉱山」があります。

八甲田山中の田代平湿原を通り過ぎ、舗装されていない道を進むと遺跡のような巨大建造物が現れます。住所は旧天間林村天間館（現在の七戸町南天間館）、現在は閉山していますが戦中・戦後稼働していた「上北鉱山」の選鉱場です。

上北鉱山が本格稼働を開始したのは、アメリカ・カナダ・南米諸国から金属などの輸出を止められた1940年（昭和15年）、翌年1941年（昭和16年）に重要な軍需品である銅を多く含む鉱石が採掘できる鉱床を発見します。それにより1944年9月には1ヶ月で1,400tの銅が産出され、日本最大の銅山となり「神風鉱山」と呼ばれました。輸送のため、青森市の旧野内駅（現在は1.5km離れたところに移転）に、上北鉱山から鉱石を輸送するために架空索道（ロープウェイ）が通じていました。

昭和20年には、従業員が1,485人勤務しており、従業員の家族も近

くで生活し学校もありました。上北鉱山には、東北町の乙供駅までレールが敷かれ、従業員とその家族が乙供町に来ていたことから、戦後町ににぎわいと経済的な恩恵をもたらしていました。

終戦直後は、一時生産が止まった時期もありますが、戦後も操業を続けます。操業継続後も銅をはじめ、鉄や亜鉛が産出されますが、資源の枯渇から1973年（昭和48年）に生産を停止し閉山します。

鉱山は、閉山後も強酸性や有害金属を多く含む廃水が発生するため、鉱害を防止する処理施設が稼働し排水の処理を行っています。周りに比較的新しい建物や電線が見えるのはそのためです。

稼働していた当時は、木は周りに生えていませんでしたが、今は選鉱場にも木が生え、周辺は森となっています。道中、多種多様な動物や鳥が道路を横切っていました。

鉱石から目的とする金属を高純度で取り出す作業を行っていた選鉱場は頑丈に作られていたことからはっきりした形で残っており、このように残っていることは全国でも非常に珍しいようです。場内ふくめ周辺は立入禁止となっている場所が多いためそのような場所には入らないようにしてください。

和徳店とるいけ店に フレッシュスムーザーマシンと 炭酸水自販機を導入しました。



7月29日 るいけ店、30日 和徳店に、別売りの専用マイボトル（1ℓ）へ好みの強さの炭酸水を給水する自販機を青森県内ではじめて導入しました。

炭酸水には、隣接する給水機の逆浸透膜を使ってろ過したキレイなお水を使用。炭酸の強さは3段階から選ぶことができ、好みの強さの炭酸水を楽しむことができます。

専用ボトルとキャップは給水前に機械が洗浄し衛生的です。また、繰り返し使用するため、ペットボトルゴミを削減することもできます。

コープでフレッシュスムーザー



7月21日（月）から、和徳店で新鮮な生の果物からフレッシュスムーザーが作れる機械を導入しました。

カットフルーツコーナーの専用カップを購入後、店舗に設置してあるスムーザーマシンに入れて、その場でフレッシュスムーザーが作れます。

松原店でビンゴ大会と マグロ解体ショー

8月1日（金）に、松原店で県産米やコープ商品が当たるビンゴ大会とマグロ解体ショーをしました。

配布期間中、一定以上お買い物するともらえるビンゴカードを使い行われたビンゴ大会には100名を超える組合員さんが参加しました。番号が抽選される度に、店内は様々な反応で大盛り上がりでした。

マグロ解体ショーでは、53kgの青森県産本マグロを目の前で解体し、大トロや赤身など部位に分けて販売しました。販売後、マグロはすぐに完売しました。



▲マグロの解体に皆さん興味津々。



▲ビンゴが揃って、賞品をゲットしました。